

◆1月14日(日)のごミサ終了後、祝賀会をサロン形式で集会所で開催する。

★教会建物修繕関連の話:

Q: 教区からの借入金の返済状況?

A: 教区より1300万円の融資を受け、年間130万円を目標に返済中。返済完了は2008年だが、今のペースで(収入増の時の倍額返済含めて)完済迄4~5年短縮見込み

Q: 完済後に考えることは?

A: 教会建物は建ててから30年を経過しており、外壁の汚損、室内照明器具の老朽化が目立つので、塗装または交換の何れかに早く取りかかりたい。

★壮年会だより

<12月17日(日) 12名出席>



(1) 教会委員会(12/3)の報告

- ◆財務関係の内、特にバザー収支について最終の報告がありました。収益金より「対外支援」として2ヶ所へ計50,000円の寄付、残金583,319円がバザー純益となりました。
- ◆バザー委員会の福島さんから、ご協力に対し謝意が述べられ、併せてバザー抽選券の完売については、山崎神父様の格別のご配慮があったこと、若干の景品の残りの処分、バザー全般について問題点の集約を図り、次回に活用したいとの報告がありました。
- ◆御降誕祭を迎えるにあたってのいろいろな準備の補足説明。12/24夜のミサの時間は午後7時と確定しました。
- ◆横浜教区典礼委員会の「聖体奉仕者研修会」開催にあたり、山崎神父様のご推薦を頂いた形で、壮年会から小野寺さんと竹内さん、婦人会から阿部(映)さんと小山さんが、神父様のご意向に従い、1月~3月に3回の日程で、カトリック藤沢教会での研修会に出席します。研修内容については終了後報告をしたいと思います。

(2) 議案及びお知らせ

- ◆平成13年1月の聖書朗読、奉獻奉仕は次の方々をお願いしました。 1/7: 清水さん、1/28: 下村さん
- ◆壮年会本年度会計の繰越金より、下記のように支出が承認されました。
  - (A) 教会建設会計へ特別献金 10万円
  - (B) 御降誕ミサ後のクリスマスパーティーの時の飲み物代 12,000円程度
  - (C) 子どもさん達へのケーキのプレゼント代 12,500円 (昨年実績 250円×50個)
  - (D) 一粒会へ特別献金 12,000円
- 【過去、「一粒会」に壮年会が会員として登録していたことが、この度判明しました。改めて定められた会費を来年より納入いたしますが、未納分をまとめて、上記の特別献金としました】
- ◆壮年会の次期役員選出について、すでに何人かの方をお願いしたところ、ご内諾を頂きましたので報告致します。 会長: 福島さん、副会長: 宮崎(佐)さん、会計担当: 橋さん
- ◆壮年会会議日程の確認
  - (A) 平成13年1月の定例会(総会を兼ねる) 1/28(日) 御ミサの後、集会所にて
  - (B) 壮年会新年親睦会 1/28(日)定例会の後、「藤よし」にてこれらについては何れご案内と申込み書を掲出致します。
- ◆本年度の会計収支をまとめる時期を迎えました。例年に比し繰越金が多く見込まれるようで、その増加分を如何に処理すべきか、次回の定例会で検討したいと思います。

(3) その他

- ◆第9回湘南短期キリスト教セミナー(11/11~12/2)について、聴講された方々から感想や印象が活発に述べられた。従来より内容が濃いセミナーであったと好評だった。
- ◆最近の子どもさん達の食べ物の嗜好の変化を見極める必要がある。クリスマスにあたり、子どもさん達にケーキ

をプレゼントすることから話が弾んだ。

◆クリスマスパーティーをバイキング式にしたら面白いのではないかと。雰囲気を楽しみ高めるために試してみよう。

★婦人会だより

<12月17日(日) 37名出席>



◆委員会報告

- ◆クリスマス12月24日7時のミサ後のパーティにトン汁、おこわ他を作ることに決まる。
- ◆聖体奉仕者 婦人会より、小山恭子さん、阿部映子さん決まる。 神父様より推薦、司教様より、講習終了後、任命書を受ける、任期2年間。
- ◆一般会計より中位のモップ3本と包丁3本購入する。
- ◆平成13年度の役員が決まる。
  - 会長 岩崎 好愛 モニカ (C地区)
  - 副会長 小山 恭子 アグネス (A地区)
  - 書記 大宮 絢子 マリアテレサ (B地区)
  - 会計 富田 ヒサ マリアテレサ (C地区)
  - 特別会計 中谷 田鶴 マリアテレサ (B地区)
  - 典礼 松尾 ヌ子 マルガリタ (A地区)
  - 大原 幸恵 小テレジア (D地区)
  - 福音宣教 内藤 和子 エリザベト (D地区)
- ◆平成13年の総会新年会が、H13年1月28日(第4日曜)に、行われます。
- ◆H13年掃除当番表と新年会の申込み表に、お名前を御記入下さい。
- ◆お知らせ
  - 同志会新年会1月25日(木) am11:45~、ラロシエル、3500円、上大岡下車、東急デパート10階、細井神父様 御出席

次回例会は1月28日(日)、次回当番はC地区です。

◆お知らせ

◆洗礼

おめでとうございます  
12月24日 萱場大智ちゃん(萱場麻里さんご長男)

◆転居

永田麻里様  
新住所: 戸塚区汲沢2丁目23-32 (Tel. 862-5660)

◆お願い

大阪の釜が崎(「路の里」)から、緊急にということで毛布の要請がきています。不要のものがありましたら御提供お願いします。(石川)

◆信徒総会

1月21日 9時ミサ後

◆新年会

壮年会、婦人会とも1月28日  
お早めにお申し込み下さい。(教会掲示板)

◆ミサ当番表 (2001年1,2月)

月/日	主日	朗読、奉納	オルガン
1/7	主の公現	壮年会	岩 淵
1/14	年間第二主日	青年会	森 脇
1/21	年間第三主日	婦人会C地区	森 田
1/28	年間第四主日	壮年会	保 科
2/ 4	年間第五主日	壮年会	岩 淵
2/11	年間第六主日	青年会	森 脇
2/18	年間第七主日	婦人会D地区	森 田
2/25	年間第八主日	壮年会	保 科

当番の方は10分前には集合して下さい。ご都合の悪い方は典礼委員(萩原氏: Tel. 802-6258)迄お申し出下さい。

◆広報おかわだ

第265号

◆今月の予定

- 委員会 1月 7日
- 成人祝福ミサ 1月 28日
- 信徒総会 1月 21日
- 壮年会、婦人会 1月 28日
- サロン 1月 14日
- レジオ 1月12,19,26日



2001年1月号

中和田カトリック教会  
広報委員会発行  
泉区中田北1丁目9-1  
Tel. (045) 803-6141  
平成13年1月7日



◆退院のあと ③

山崎 正俊



その頃、ユダヤ人の指導者たちは、ローマ皇帝の定めに従って、いわゆる間接支配をさせられていた。総督のピラトは、ユダヤ人たちが何をさわいでいるのか、何故にそれが大問題なのかを、深くはわかっていなかったらしい。イエズスさまがユダヤ人たちの権力者から、それほどにも嫌われている理由が納得できなかったのに、自分の失政について、皇帝に訴えようとしていることは感じていても、直接に皇帝への反逆には当たらないからです。内部同志のイザコザなど、国家的なことではないことと決めつけて、自分たちの掟で決着の付くことにすぎないはずのものです。

それを皇帝への反逆罪と主張し、キリストさまを「死刑」にしてほしいと願って騒いでいるのです。国家的な大問題と作りあげられるならば、それは自分の指導力の不足による判断されるかもしれないから、それがわずらわしくて、それを小事件としてかたづけたいたくても、死刑の判決を出してしまうならば、小事件としてはおさまらない大事件のはず。皇帝への反逆の場合に準ずるほどの手続きをすることになるから、失点になる。

小さなイザコザでも、死刑で決着するようなことは、何であれ、居心地のよいことではないはず。

「おまえは王か」「それは、誰かの訴えを認めてのことか。私の国は此の世のものではないと言いつづけている」では、反逆罪には当たらない。つくりごとになって、おかし気なこと。総督としては、こんな不名誉なことではないはず。

教会は事実として、2000年にもなろうとする今になっても、まったく無力な大工あがりの男を、英雄につくりあげてしまった。このような人物をそのままにのさばらせておく、大帝国の名誉はどこにあるのか。このイエズスさまの偉大さと尊さは、何にもたとえようがない。それにしても、このイエズスさまのあとに従うカトリック教会とは、何というおかしげな集団であることか。私は不思議でならぬ。イエズスさまは、平気で、大罪人の印を以って、それを前代未聞の最高位にも挙げておられる。そのあとを追う者としての痛みに従う者に甘んじている私もいる。不思議だ。そのあと、すぐさまキリストさまの名のために残酷な目にあわされたあの弟子が続いているのも、そのことを記憶しながら生命をささげている殉教者が、誤ることなく、正当な道をすすんでいく姿があるのは、有難いことではないか。83歳になっても、愚かであったとしても、それとしての喜びに胸を熱くしている。(2000.12.3)

# 超生さんへの手紙

上野 明子

※「超生」父故渡邊清の画号。若き日肺結核を患い、大病、死の淵より奇蹟的に助かり、それらを超えて"生かされている"という意。

拝啓

電車が富士川鉄橋へさしかかると、右手の明星山の後ろから、富士山が追いかけるように出迎えてくれます。私はドアへ駆け寄り、「ただいまあ」と挨拶するのです。

その泰然とした雄々しい姿は、まぎれもない我が父なのですから！山と清流に囲まれた、この小さな田舎町で七十余年。「退屈ではなかったの？」と問えば、あなたは無言で「富士山」を仰ぎ、何枚も何枚も絵を描き上げては、決まって最後に「超生」と署名をしておりましたね。

若き日、海軍士官への夢を断たれ、大病から奇蹟的に生還。絵描き教師に転身して、毎日霊峰と向き合っている内に、「人間は無欲・無心で生きるのがよいのだよ」と人生を達観し、いやしを頂いたのでしょね。

16年前の秋晴れの日、茶屋に付されたあなたの一筋の煙は、最も美しい姿の富士山に向かって昇っていききました。

はや老いの入口に立ってしまったらしい怠け者の私ですが、あなたのような濃密な生き方、遅くはないでしょうか？頑張ってみます。見守っていて下さい。いつまでも…。

少マファザーコンプレックスの娘・明子より



※写真は、静岡県富士宮市教育委員会主催の「富士山の絵手紙」コンクールに初めて応募、7500点の中から「佳作」の仲間に入れていただいたものです。今年5回目だそうです。このところ故郷を遠のいていたので、父が、「描画を始めてごらん」と接点を持たせてくれたように思えます。

# 小さな十字架

岩崎 好愛

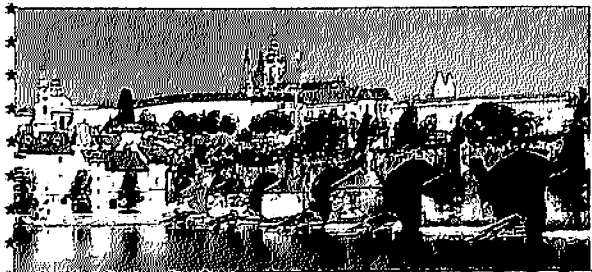
新しい千年紀の始まり、21世紀がいよいよスタートした。過ぎ去った20世紀は、地球上にほとんど絶えることのない戦争と民族紛争の百年であった。そして未だに続いている。21世紀が愛と平和にみちた百年となるよう祈らずにはおれない。

1998年夏、私はチェコのプラハを訪れて、平和のすばらしさを実感してきた。第二次世界大戦でナチスの手に落ち、戦後ソ連による開放後は、共産主義の原理が優先された社会主義国家として歩み始めたチェコ。しかし、その後1968年には、いわゆる"プラハの春"とよばれる自由化政策が進められるようになった。これは一旦挫折したが、一度湧き起こった自由を求める市民の熱い思いは頓挫することなく、ついに1968年11月7日、この日プラハの市民は街をデモして、引き続き権力を維持していた共産党中央委員会を解散させるべく勇敢に立ちあがり、新生チェコスロバキア連邦共和国を誕生させた。

1968年当時、テレビのニュースを通して、私はソビエトの戦車が、幅60メートル、長さ760メートルのヴァーツラフ広場を進み、多くの市民や学生が抵抗する様子を見て心を痛めたのを憶えている。私が立ったヴァーツラフ広場はまさに全体主義政権と闘い、その犠牲となった人々に捧げられた、象徴的な意味での巡礼の場なのである。そこに立つ小さな十字架は、犠牲になった人々を記念するために誰となく設えたものなのだそう。私は祈りながら、犠牲となってまで闘った若者たちを想い、市民が自らの手で勝ち取った平和の尊さをかみしめていた。

この日のヴァーツラフ広場は、夏の太陽が輝き、ショッピングを楽しむ市民の明るい顔があふれていた。それは、闘いの重く激しい空気が渦巻いていたテレビの情景とは打って変わった光景であった。私は、「戦争と平和」のこれほどまでの違いを忘れてはならないと思った。長い間東欧の民主化をこの目で確かめたいと思ってきて、やっとそれが叶ったとき、プラハの街はひととき美しく輝いて見えた思いがした。

夕方近くブルダバ川にかかる「カレル橋」の上に佇む。塔とドームの影が波でかすかにゆれて映る広い流れに白鳥が泳ぎ、まるで絹のようなベールが周りの丘にかぶさり、その間から尖塔や鐘楼の先だけがのぞく様を見たとき、プラハの街を包む平和と静けさが、再びじわじわと私に迫ってきた。ヨーロッパで最も美しいといわれるこの橋の欄干に沿って並ぶ三十体の聖像の見守る中、私の中に湧き起こってくる感覚を大切にしながら、多分同じ気持ちである友人と共に、しばし黙ったまま佇み続けた。



# 歌は祈り

岩淵 洋子

“明けましておめでとうございます”

こう皆様へ申しあげられる喜びを今実感しています。昨年は思いがけない病の為に色々ご迷惑をおかけしましたが、また中和田教会のオルガニストとして復活でき、聖歌を通して皆様と心ひとつにしてミサに預かれる幸せを改めて感謝するこの頃です。

ところで聖歌といえばミサでいつも歌っている典礼聖歌はどなたが作られたのか御存じでしょうか？ 恥ずかしながら私はてっきりどこかの名も知れないシスターがひっそりと作曲し、修道院でうたっていたものを歌集としてなんてかってに思い込み、歌い始めの頃は字余りで歌いにくいお経みたいな歌だなあ、なんて批判的な目で見ていました。最近では慣れてきたせいもあり、メロディも良く計算され、詩編とマッチして自然な流れの中で歌える親しみやすい曲だと感じ取れるようになりました。

その典礼聖歌の多くが有名な作曲家高田三郎先生の作曲であることを最近知り驚いています。作曲者の欄に『TS』と明記されているのがそうです。学生時代に先生の合唱曲を歌ったことが懐かしく思い出されます。残念ながら高田先生は昨年10月亡くなられたことはカトリック新聞等で既に御存知のことと思います。

高田先生は1913年生まれ。東京音楽学校（現東京芸大）の学生時代から作曲活動に入っていました。カトリックの洗礼を受けたのは1953年、40歳の時でした。その後10年にわたり洗礼を受けた初台教会においてミサの聖歌伴奏を行うようになり、当時のグレゴリオ聖歌やラテン語ミサ典礼に深く関わったことが、後年日本の典礼聖歌の作曲という仕事に立ち向かった時に影響を及ぼしたと考えられます。

先生の著書の中に「グレゴリオ聖歌は正真正銘の祈りの歌であり、旋律である。私はこの中で真の祈りを知った。また音楽の役目のひとつに祈りがあることを知った。そしてそれが音楽のもっとも重要な役目であることを知り、私の以後の人生と音楽に大きく影響を与えた」と書かれています。

1962～65年にバチカン公会議によってそれまでのラテン語によるミサを「自国のことばと歌」で行うこととなり、日本カトリック司教団は高田先生に作曲を依頼しました。先生は、「ミサは聖書のことばをもととしている。ミサの聖歌もまた聖書のことばがそのままに歌われることが重要である」と考え、グレゴリオ聖歌の様式リズムと日本の伝統音楽の要素を加味し、典礼聖歌の作曲に取り組みされました。

先生が晩年までに作曲した典礼聖歌は120曲以上にも及び、現在はほとんどすべてのカトリック教会の典礼に使われています。

病氣と戦いながら最後まで信仰と歌に生き、霊的指導者でもあった高田先生の功績に深く感謝し、心よりご冥福をお祈りいたします。先生の残されたことばをかみしめながらこれからもしっかりと歌い続けていこう、いかなくてもはいけないと心あらたにした21世紀の幕開けでした。

「典礼聖歌は、神のすぐ前にたって直接歌いかける歌です。よい声で歌う歌ではない。旧約の信仰、新約のことばを、自分自身と聞いている人々の心の奥にまで届け、その心に深く刻むためにうたう旋律です」

## 委員会だより

<12月3日(日) 12名出席>

### [1] 財務報告：00.11月度決算報告 ( )内:00年度年間予算

	00° 収入累計	00° 支出累計	収支差額
一般会計	¥ 6,316,219 ( 6,257,868)	¥ 5,503,136 ( 6,157,868)	¥ 813,083 ( 100,000)
建設会計	¥ 3,836,264 ( 3,356,956)	¥ 1,203,890 ( 2,795,000)	¥ 2,632,374 ( 561,956)
愛の献金	¥ 631,026 ( 780,065)	¥ 251,762 ( 320,000)	¥ 379,264 ( 460,065)
信徒預金	¥ 818,826 ( 619,375)	¥ 154,306 ( 440,000)	¥ 664,520 ( 179,375)

▶特記事項：◆一般会計：神父様より224,000円、信徒の方より122,497円の特別献金を頂く。

◆コピー機の状態が良好故来年度もリース継続(年額129,780)  
◆最終バザー収支計算：収入計：644,372 支出計：66,053  
バザー収益：578,319 その他収益計：55,000  
収益合計：633,319

注：上記収益から支出した寄付金：泉区社会福祉協議会：30,000、婦人同志会(高齢司祭援助)：20,000。バザー収益合計は寄付金を差し引き 583,319円。

◆バザー収益から教会の建設会計へ400,000円献金し、信徒

会残余金は略200,000円とする。

◆教区より職員給与に関する税務対応指導が有り、書類も送られてきたので教区担当者で相談して進める。

### [2] 議事内容：

#### ◎ バザー委員会報告(福島さん)：

- ◆入賞のうち、5等、6等に残り有り。申し出が無ければ無効として処分。7等の残りは婦人会に処分依頼。
- ◆壮年会、婦人会で話し合われた問題点や反省点は、今後の為にバザー委員会に連絡願いたい。

#### ◎ 降誕祭の準備：

- ◆12月9日(土) 10:00amより大掃除
- ◆12月10日(日) 赦しの秘跡(鶴飼神父様)
- ◆12月24日のごミサの開始時間は7:00pm。パーティはこの時間設定に準じて準備する。
- ◆パーティの全体予算は50,000円。軽食は婦人会に一任、壮年会は飲み物提供及び子供達にケーキをプレゼント

#### ◎ 横浜教区典礼委員会主催の「聖体奉仕者研修会」開催(1/21, 2/18, 3, 18)：

中和田教会からは、小野寺、竹内、阿部、小山の4氏が参加することに決定。

#### ◎ 2001年の成人式：

- ◆該当者は上野さん、滝川さん、山田さんの3名。
- ◆1月14日(日)のごミサ終了後、祝賀会をサロン形式で集会所で開催する。